

恵寿フィロソフィ

平成29年4月～6月目標を持つ

●チャレンジ精神を持つ

人はえてして変化を好まず、現状を守ろうとしがちです。しかし新しいことや困難なことにチャレンジせず、現状に甘んじる事は、すでに退歩が始まっていることを意味します。チャレンジと言うのは高い目標を設定し、現状を否定しながら常に新しいものを創り出していくことです。チャレンジという言葉は勇ましく非常に心良い響きを持つ言葉ですが、これには裏づけが必要です。困難に立ち向かう勇気とどんな苦勞も厭わない忍耐、努力が必要なのです。

●高い目標をもつ

高い目標を設定する人には大きな成功が得られ、低い目標しか持たない人にはそれなりの結果しか得られません。自ら大きな目標設定すれば、そこに向かってエネルギーを集中させることができ、それが成功のカギとなるのです。明るく大きな夢や目標を抜いてこそ、想像もつかないような偉大なことが成し遂げられるのです。

PNS研修会(2泊3日)in福井大学附属病院

3病棟2階:山口 千加 (研修報告)

3日間の研修を通して、実際に現場でペアの業務を朝から見せて頂きました。お互いに声掛けしながら、情報をとり先にラウンドしてくる人、その間に点滴(ケモ)の準備をする人に分かれて効率的に患者の検温に回り始めました。一人は話しながら容態を確認しもう一人はその情報を見聞きし、パソコンに記録していました。その時にベッド周りの環境整備(拭き掃除)も一緒にしていました。術後1日目やICUからの転入患者等の重症度の高い患者の観察、検温なども二人で、あるいは応援を呼んで短時間にテキパキとされていました。術後のたくさんチューブ類やモニター、麻薬等も二人で確認しており安心、安全につながると実感できました。1人の患者の検温、処置(清拭、陰部洗浄、創部観察、弾性ストッキングの履き直し等)、ME機器のチェックもすべて終えてから、次の患者に移るといふふうに戻っていました。産婦人科病棟研修では、新人ナースとのペアに付いて研修しました。テープの貼り方など、『これでいいけど、ちょっとおしいね。直してもいい?』と先輩ナースに言われていました。聞いていて感じが良かったです。カンファレンスがリーダーのもと自主的に集合し始まり、記録する人も『記録しまーす』と自主的に手をあげて行っていました。意見が飛び交って活気のあるカンファレンスでした。朝の開始(ナースセンターをスタート)からずっと患者の部屋か廊下で記録しており、センター内で業務している姿はほぼ見ませんでした。(椅子に座っている姿もなかった)昨年看護部の目標であったPNSの導入で、とにかくペア(2人)で検温に回る事から始め、形から入ってしまい、やらされている感が強かったのですが今回の研修で、パートナーシップマインドが一番大切で、いいと思ったことはやってみる。工夫すること、発想すること。出来ないじゃなくて、どうしたらできるかを考えるということを学びました。自分たちの病棟の問題点(足りないところ)を洗い出し、自由な発想と発想の転換を行いながら、PNSの定着を目指したいと思います。

第4回抗がん剤投与実践研修始まる

平成29年6月9日から、第4回抗がん剤投与実践研修が始まり、研修は、がん化学療法認定看護師が中心となり、講義・OJT・演習を約6か月間をかけて研修を行います。安全な臨床実践をめざして、各部署から8名の看護師が研修を受講しています。

なう 看護部Nau

平成29年6月
第33号発刊
社会医療法人
財団董仙会
恵寿総合病院
看護部管理室

看護要員のQOL向上を期待!

「働き方を考えるチーム」を師長・主任で結成し、2年にわたり、看護要員(看護職と看護秘書、介護福祉士の総称)すべてのWLBに取り組んできました。2交代制夜勤の導入の実現、夜勤手当の確保、また、働き方による処遇の改善活動では、この6月に賞与にポイント制を導入することになりました。人生のライフステージの中では、結婚や育児等によって、一時的に仕事を制限しなければならないことがあります。子育てが一段落して仕事ができるようになり、スキルアップもできてきたころに家族の介護で仕事を制限しなければならなくなったなど、個々によりその事情や期間の長短に違いはあっても看護要員が、順番に体験していく過程と考えられます。したがって、勤務を制限しなければならない期間は、制限に見合った処遇を。また制限なく働く場合もその状態に見合った処遇で、お互い様意識を取り戻し、看護要員すべてが365日、24時間の看護を支えあえる処遇を検討し、今回のポイント制(加点累積方式)の導入に至りました。皆様への詳細説明ができぬままのスタートとなりました。一日でも早い処遇改善への期待が高く、今回の運びとなりましたが、ご協力に感謝いたします。7月4日、7月11日に説明会をもちますので、参加ください。

看護師の

特定行為研修情報

昨年、10月から開講した看護師の特定行為研修は、今年の3月に共通科目を修了し、4区分別科の授業が行われています。6月14日(水)は、呼吸器(気道確保に係るもの)関連の実技試験(OSCE)バックバルブマスク(BVW)による用手換気と気管挿管チューブの位置調整が、外部指導医中村耕一郎先生を招き、本番さながらに行われました。二人の先生から丁寧な指導もいただき、研修生にとっては、大変濃厚で贅沢な研修(緊張)のひとつでした。



患者さんよりお褒めの言葉

【3病棟3階のご意見箱より】いつも親切で、丁寧な病院。家族としてありがたく思っています。どのスタッフの方も本当に親切です。安心して母を入院させてもらっています。(本文)

【本館4階ご意見箱より】病院のきれいさ以上に、医師・看護師・他スタッフの方々が温かく、礼儀正しく大変感激致しました。私自身、大阪の国立病院に勤務していましたが、都会の病院に負けない素晴らしいです。(勝っています!!)両親が暮らす故郷に素晴らしい病院があり大変安心しました。本当にありがとうございました(本文)



外来の紹介

救急センターに勤務してー北野 麻美、鈴木 万紀

あらゆる疾患や外傷患者が多く搬送されることから、そこで働く看護師も様々な診療科の知識や技術を常に学び続けなければなりません。特に私達自身が救急看護師として感じたことは、情報収集の取り方の難しさです。「事故や急変はどういった状況で」「既往歴」など診療や治療に必要な情報を一気に集めなければなりません。患者さんの意識状態が低下した時や、症状が悪化した場合などにおいて一刻も早くその患者さんの情報が必要なのです。救急看護師として、自らのスキルアップの機会がたくさんあるところ。よりよい看護を提供するために、つねに学び続ける姿勢を欠かさず日々頑張っていきたいと思えます。そして、将来的にはドクターヘリに同乗して救急看護を行うフライトナースや、災害現場に急行し、被災者の救援活動を行う救急看護師を目指したいです。



がんサポート看護外来開設

がん性疼痛看護・がん化学療法看護認定看護師が協働する事で、がん患者と家族に対し、がんやその治療法について理解し自分らしくがん向き合っている様に身体面、精神面、社会面を含めた全人的な支援を行います。
 内容としては、がん告知に関する不安の軽減。手術やがん化学療法、緩和医療などの治療方法に関する情報提供や意思決定支援。がん治療中の副作用や日常生活の不便を解消する方法の提供。ケア用品などに関する情報の提供。アピアランスケアを通じた精神的・社会的側面の支援などです。

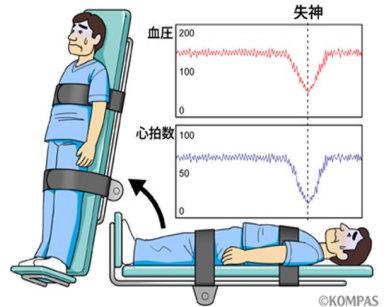


がん患者サロン Smile～すみれ～

がん患者・家族の方々の心のふれあいの場として、2014年5月からがん患者サロンを設置しています。がん患者・家族が気楽に病気の悩みや、同じ治療を受けた体験等について語り合い、交流することができる場とすることを目指し活動しています。定期的にイベント開催も行き、仲間づくりのサポート、療養生活に役立つ情報の発信や、がん化学療法認定看護師が日頃の疑問にもお答えしています。6月は「メッセージカード作り・七夕飾りの短冊作り」を行いました。次回開催は8月17日「上手に栄養をとろうパートII」です。お気軽にご参加ください。

小児科外来 ヘッドアップティルト試験の紹介

医学的に突然、一時的に意識を失うことを失神と呼びます。Head-up Tilt Test(以下、ティルト試験)はその失神の原因をしらべるための検査の一つです。失神の原因の一つに自律神経の調節異常があり、ティルト試験は自律神経の調節異常がおりやすいかどうかを確認する検査です。検査方法は下記の図のように、患者さんに検査台の上に横になってもらい、検査台を起こして他動的に傾斜をつけることで自律神経の働きを検査します。所要時間は1～2時間程度となります。



3台の救急車が並んだ救急センター、『お断りません』受け入れ可能です。(6月の午前中のこと)

～糖尿病患者さんの「足」を救いたい～ フットケア外来

大切な足を守るためには、血糖値のコントロール、自宅でのお手入れが必要になります。そのためには、自分の足の状態を知り、状態に合わせた方法で手入れができるように指導します。早期発見ができるように1人でも多く関わりたいと思い毎回奮闘しています。気軽に声をかけて下さい。毎週木曜日の予約制ですユニバーサル外来の川端・宮島までお申し出ください。

PET-CTセンター NEW

前立腺がん骨転移に対する新しい治療薬「ゾーフィゴ静注〔一般名：塩化ラジウム(223Ra)〕」
 ゾーフィゴ静注は、骨に転移した去勢抵抗性前立腺がんに対して抗がん作用を持つ、治療用の放射線医薬品(注射薬)で、「ラジウム-223(223Ra)」というアルファ線(α線)を放出する放射性物質が含まれています。このラジウム-223には、骨の成分であるカルシウムと同じように骨に集まりやすい性質があり、静脈注射で体内に送られると、代謝が活発になっているがんの骨転移巣に多く運ばれます。そして、そこから放出されるアルファ線が、骨に転移したがん細胞の増殖を抑えます。投与は、PET-CTセンターで4週ごとに1回、合計6回まで行うことができ、費用は1本あたり68万円のため、高額医療費払いの対象となります。



~~~~~ 病児保育室 あんず ~~~~~

お子様が病気の時 どうされますか？

子どもが心配だけど 仕事も休めないし 困ったわ！

病児保育室あんずでは、お家の方が仕事で休めないとき 病気のお子様をお預かりする施設です。